

(例)

添付資料 4

識別ポイントに係る資料

本資料は記載方法の一例です。
詳しくは税関にお問い合わせください。

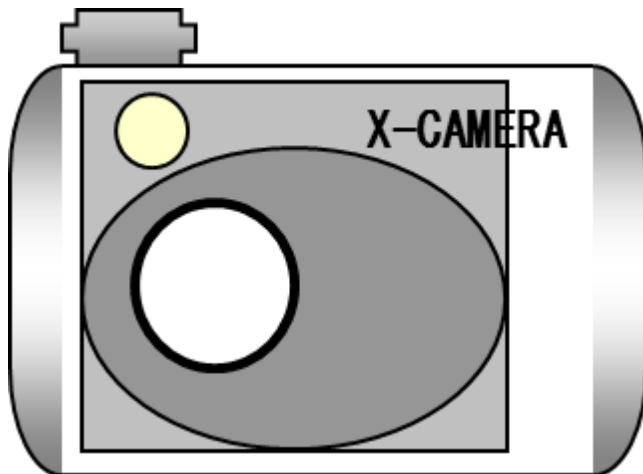
1. 認定手続を執るべきことを申し立てる貨物（対象品）

商品名「〇〇パワーカメラ」であって型式番号「A 0 1 2 4」のデジタルカメラ（以下「イ号物品」という。）

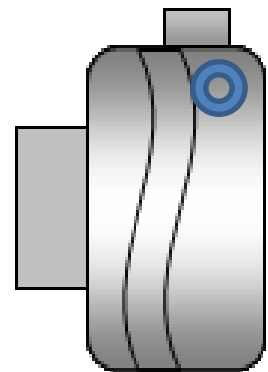
商品名「〇〇パワーカメラ」であって型式番号「A 0 1 2 5」のデジタルカメラ（以下「ロ号物品」という。）

イ号物品：

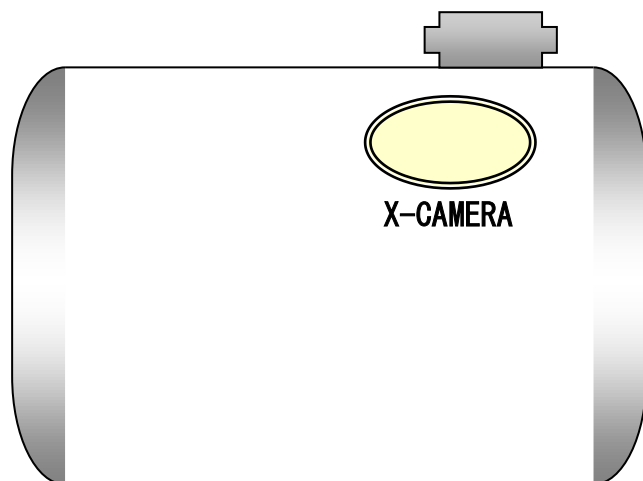
<正面写真>



<右側面写真>

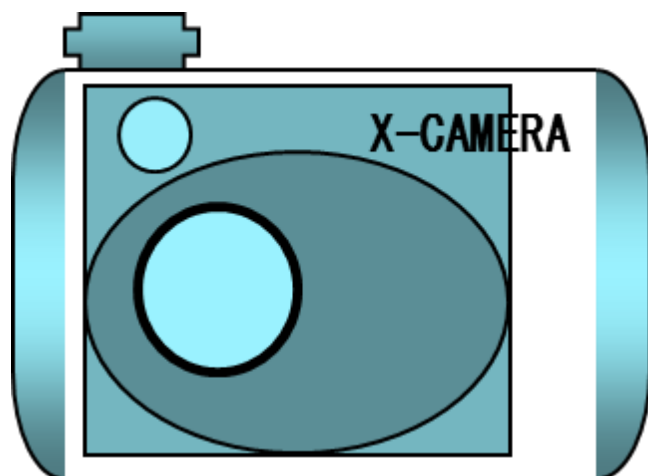


<背面写真>

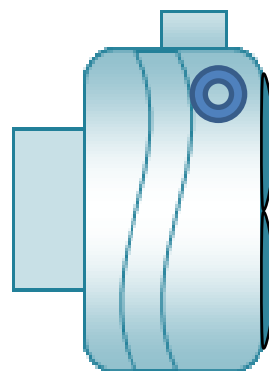


口号物品：

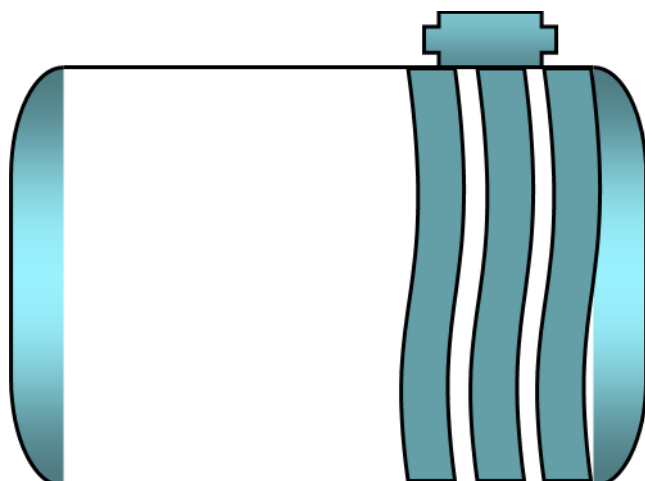
<正面写真>



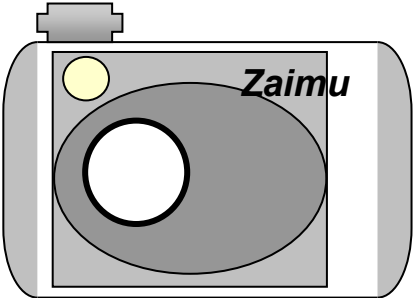
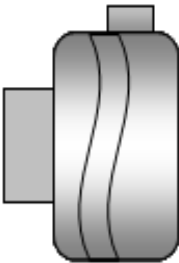
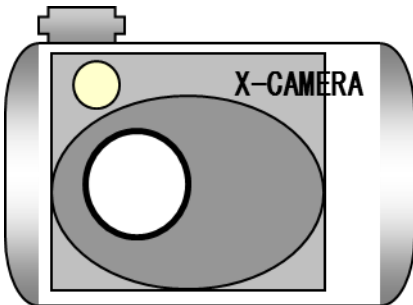
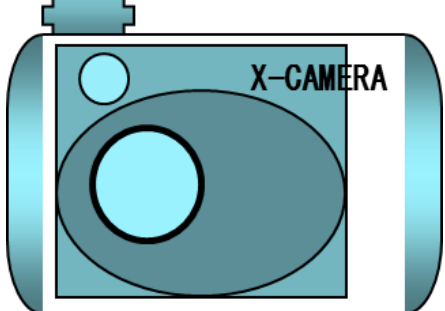
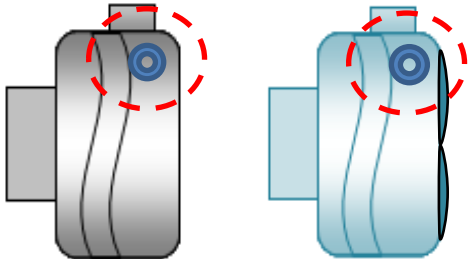
<右側面写真>



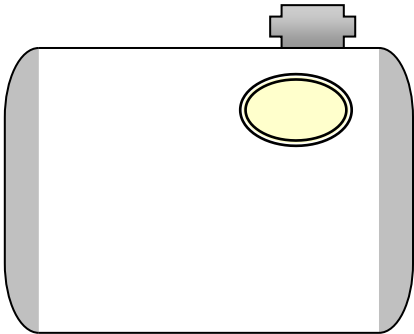
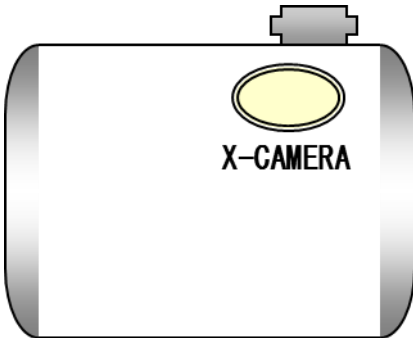
<背面写真>



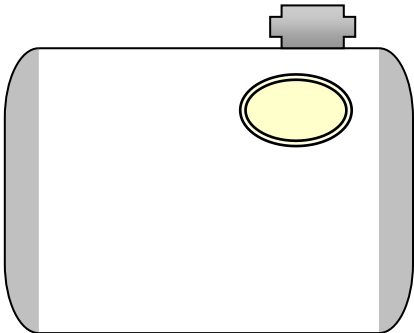
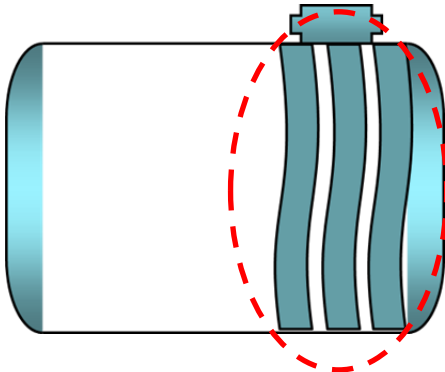
2. ＜共通＞真正品（権利者製品）と侵害品（対象品）の相違点

真正品	侵害品（対象品）
<p data-bbox="379 331 571 365">＜正面写真＞</p>  <p data-bbox="175 1283 766 1361">・ レンズの右上部に「Zaimu」のロゴ表記がある。</p> <p data-bbox="363 1451 587 1485">＜右側面写真＞</p>  <p data-bbox="175 1904 598 1937">・ ストラップ用リングはない。</p>	<p data-bbox="1026 331 1217 365">＜正面写真＞</p> <p data-bbox="826 376 994 409">【イ号物品】</p>  <p data-bbox="826 790 994 824">【ロ号物品】</p>  <p data-bbox="818 1283 1409 1361">・ レンズの右上部に「Zaimu」以外のロゴ表記がある。（例：X-CAMERA）</p> <p data-bbox="1010 1451 1233 1485">＜右側面写真＞</p> <p data-bbox="890 1496 1058 1529">【イ号物品】</p> <p data-bbox="1185 1496 1353 1529">【ロ号物品】</p>  <p data-bbox="818 1904 1241 1937">・ ストラップ用リングがある。</p>

3. <イ号物品のみ>真正品と侵害品（対象品）の相違点

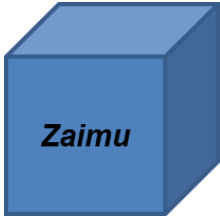
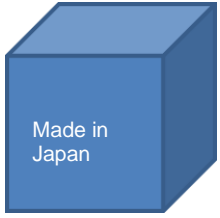
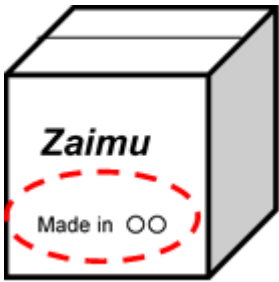


真正品	侵害品（対象品）
<p><背面写真></p>  <p>・ 背面にロゴ表記はない。</p>	<p><背面写真></p>  <p>・ 背面にロゴ表記がある。（例：X-CAMERA）</p>

4. <ロ号物品のみ>真正品と侵害品（対象品）の相違点

真正品	侵害品（対象品）
<p><背面写真></p>  <p>・ 背面に滑り止め部はない。</p>	<p><背面写真></p>  <p>・ 背面に滑り止め部がある。</p>

もし、包装等しか識別ポイントがない場合は、一度、税関にご相談ください。

5. (参考) 包装等の相違点

真正品	侵害品（対象品）
<p>＜個装箱＞</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・略立方体の青色の箱の中央に「Zaimu」のロゴ表記がある。  <ul style="list-style-type: none"> ・箱の背面下部に「Made in Japan」と印刷されている。 <p>＜輸送用外装箱＞</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・「Zaimu」のロゴ表示がある。 ・原産国の表示がある。なお、権利者製品は○○国のみで製造。 	<p>＜個装箱＞</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・直方体の青色の箱に「Zaimu」以外のロゴ表記や型番の表示がある。 (例：「X-CAMERA」「AT1000」)  <ul style="list-style-type: none"> ・箱に原産国を示す表示はない。 <p>＜輸送用外装箱＞</p> <p>不明</p>

6. (参考) 真正品について

真正品
<ul style="list-style-type: none"> ・真正品は、シルバー、水色、オレンジ色の3色展開である。   

「識別ポイントに係る資料」作成上の留意点

- 最初に、認定手続を執るべきことを申し立てる貨物（対象品）を記載してください。
- 次に、真正品又は侵害品（対象品）に特有の表示、形状等、真正品と侵害品（対象品）を識別するポイントや方法を記載してください。
 - ※ 真正品（権利者実施品）と侵害品（対象品）の比較であって、登録意匠と侵害品（対象品）の比較ではありません。
 - ※ 侵害品（対象品）が複数ある場合は、共通するポイント、個別のポイントの順で記載してください。
 - ※ 識別のポイントとなる箇所の全体から見た位置が分かるようにしてください。
 - ※ 意匠の場合、包装等に係る識別ポイントは、原則として参考程度ですが、税関において侵害疑義物品を発見する端緒として有効な情報となります。
 - ※ 包装等しか識別ポイントがない場合は、一度税関にご相談ください。
- 本資料は、税関が侵害疑義物品の発見の参考とする資料です。税関内部で厳格に管理され、不開示資料とした場合税関から第三者に開示することはありません。